

- ・関係法規
- ・小笠原村教育目標
- ・小笠原村令和3年度主要施策

○学ぶ意欲の向上を図り、確かな学力を育む
 児童・生徒一人一人が基礎的・基本的技能を確実に習得できるように、学ぶ意欲の向上や学習習慣の定着を促し、主体的に学ぶ力と確かな学力を育む。

〈本校の教育目標〉

- ・よく学び、考え、行動する人
- ・やさしくたくましい人
- ・社会の一員として貢献できる人

地域保護者の願い

世界自然遺産に登録された島、小規模の学校を踏まえて

- 基本的な生活習慣を身に付ける。
- 豊かな心を育てる。
- 地域を大切にすることを育てる。
- 自主的に学習に取り組む。

【期待される学校像】

- ・秩序と潤いの中で生徒が生き活きと活動し、笑顔があふれる学校
- ・課題に迅速に対応し、積極的に教育活動の改善・充実を図る学校
- ・保護者や地域から信頼され、安心して生徒を通わせることができる学校

【育てたい生徒像】

「グローバルな視点で物事を考え、行動できる生徒」

- ・物事を客観的な資料等に基づいて多様な視点から考え、自信をもって自らの意見や主張を発表できる生徒
- ・自らを冷静に見つめ、人の気持ちや立場を深く考えながら、公正な判断に基づいて行動できる生徒
- ・自らの力をより高く伸ばそうとする向上心を持ち、その力を進んで地域や社会のために役立てようとする生徒

【求められる教師像】

- ・生徒の学習状況を正しく理解するとともに、自らの指導を厳しく振り返り、授業改善を積極的に進め、生徒の学びが支援できる教師
- ・生徒の心情を深く理解し、共感的に寄り添いながら、一人一人の望ましい自己実現や集団への適応を支援できる教師
- ・社会の動向を常に注視し、保護者や地域等の正当な願いを受け止めながら、教育公務員としての強い自覚に基づいて職務を遂行する教師

学校経営方針《児童・生徒の学力の向上を目指して》

【重点目標】教科の学習を通して確実に身に付けた資質や能力を活用して課題解決力を高め、「多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力」を育成する。

重点目標の達成に向けた具体的な取組

①基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のための取組

②思考力・判断力・表現力を育成する取組

③授業ユニバーサルデザインについての取組

④主体的・対話的で深い学びに向けた取組

⑤授業規律・望ましい学習習慣の確立のための取組

⑥指導と評価の一体化・RPDC Aサイクルに基づく授業改善の取組

①の例

- ・東京ベーシックドリルの活用
- ・小中の教科連携に基づく情報共有と途切れのない、スパイラルな学びの提供
- ・タブレット等を活用した反復練習
- ・漢字検定・数学検定・英語検定の活用

②の例

- ・知識・技能を活用し、課題解決を行う場面の設定
- ・解決に向けた見通しをもたせるとともに必要な情報を選択する力、思考の結果を構成・表現する力の育成
- ・言語環境を整え、自分の考えを相手に分かりやすく伝える機会を設定する

③の例

- ・小笠原中学校「授業ユニバーサルデザイン」の策定
- ・上記「授業ユニバーサルデザイン」に基づいた実践とよりよい環境作りに向けた工夫

④の例

- ・見通しを立てたり振り返ったりする活動を計画的に入れる
- ・他者との関わり（深く考え、それを他者に伝えること）を重視した授業づくり
- ・生徒が自らの学習課題や学習活動を選択する機会を設ける

⑤の例

- ・授業開きでの意識付けの徹底
- ・「家庭学習の手引き」「GW学習記録プログラム」の利用
- ・家庭学習ノートの有効活用に向けた指導
- ・「学習タイム」や定期考査前学習計画表の活用

⑥の例

- ・国調査、都調査、村調査の結果の分析
- ・生徒による授業アンケートの活用
- ・小テスト・定期考査等による形成的評価
- ・授業改善プランの活用
- ・保護者アンケートの活用

小笠原中学校「授業ユニバーサルデザイン」と「振り返り」

「全ての生徒が、楽しく学び、『できた』『分かった』『身に付いた』と実感できる授業をつくる」ことを目指し、「年齢や性別、国籍、身体的な能力、障害の有無などにかかわらず、全ての人にとって分かりやすい」というユニバーサルデザインの視点を取り入れ、「全ての生徒にとって、参加しやすい学校・学級」「全ての生徒にとって分かりやすい授業」をつくるために次のような授業改善を全教科にわたって行う。

1 焦点化

生徒が授業に集中できるように、学習のねらいを精選する。また、達成感を得られるように、どのような活動を通してねらいを達成させるのか、明確にする。

2 視覚化・可視化

教員の説明や生徒の発表が全ての生徒にとって分かりやすいものになるように、ポイントを絞って視覚的に見せて伝える。口頭での説明に加えて板書や掲示、大型テレビやプロジェクター・スクリーンを用いて、生徒が視覚的に理解やイメージしやすいようにする。

- ・板書の位置、授業展開の統一化

「本時の目標」「話し合い活動」「まとめ」「応用問題」「ポイント」など、使用する語句を統一し、教室に貼り物を準拠する。「今、なにをしている授業」なのか、明示できるようにしていく。

- ・図やイラストを活用する。

文章や聴覚刺激だけ理解させようとせず、図やイラストも活用し、その場面を理解できるようにしていく。

3 共有化

生徒がお互いの考えや意見を共有できるように、教え合いや学び合いの学習活動を設定する。授業中にペア学習やグループ学習を取り入れて、意見交換の機会を設けたり、短く時間を区切って生徒の集中が持続しやすい環境をつくったりする。

4 場の構造化

生徒が落ち着いて安心して授業に向かうことができるように、教室等の整理整頓を徹底する。教室内の物の置き場（定位置）を決めて、誰でも常に元の状態に戻せるようにして同じ環境を維持する。板書には、青・赤・緑色のチョークは使用を控え、白・黄・橙色のチョークを使用する。

5 刺激量の調整

学習に関係ない刺激に反応して注意がそれることのないように、教室内の視覚や聴覚を刺激するものを減らす。教室内や黒板の掲示物を精選したり、机や椅子を動かしたときの音など不必要な音の刺激を減らしたりして、学習活動に集中できるように配慮する。

6 時間の構造化

生徒が学習活動に見通しをもって主体的に取り組むことができるように、活動の順番や所要時間、終了時刻等の活動の流れを事前に提示する。板書の際には、説明する時間とノートに写す時間を別に確保する。

7 ルールの明確化

学校生活全般において、生徒が自分で気付いたり行動できるように、示し方を工夫したり共通化したりして、ルールを明確にする。毎日の学級や教科の提出物等については、提出する時間や場所等を共通化して明示する。

8 振り返り

学習内容の確実な定着のために、授業でのねらいを示すことや見通しをもたせることの重要性は言うまでも無いが、最後に「何が分かったのか、何が分からなかったのか」を生徒自らが思い返し、まとめたり補充したりすることが学習の定着に繋がっていく。日々の授業においては、個々の生徒の学習の取組状況を確認し、机間指導等により個に応じた指導・支援を行うとともに、授業のまとめの時間には、できる限り振り返りの時間を設定する。また単元の終わりには、自身の学びについてまとめる時間を確保し、質問がないか生徒に確認する。

また、大きな学習のまとめのひとつくりとして定期考査があるが、テストに向けて計画的な学習を行わせるとともに、実施後には振り返りとして解説を行ったり、見直しに取り組みせたりして確実な理解につなげていく。

《振り返りの小笠原中学校スタンダード》

振り返りがしやすいノートづくりのために

- ・授業の板書については、ノートにまとめやすいように配置や色遣いなどを工夫する。
- ・ノートを写す時間と説明する時間を別に設定し、ノートに記述した内容について説明し、理解ができるように工夫する。
- ・板書を写すだけではなく、大事だと思われる要点には下線を引く、マーカー等で印を付けるなどの工夫をさせる。
- ・「分かったこと」などを「自分の言葉で」記述させる。
- ・「分かったこと」・「できたこと」だけではなく、「よく分からなかったこと」「もっと調べたいこと」なども記しておくように勧めていく。

振り返りを有効に行い、価値あるものにするために

- ・各教科において、1単位時間の中で振り返りの時間を設定し、生徒が振り返る時間を確保する。
- ・授業では、前時の振り返りを効果的に使ったり、本時の学びが次時以降にどう繋がっていくかを予告したりするなど授業間のつながりを作っていく。
- ・生徒の振り返りの内容を吟味し、教師が自分の授業を振り返り、授業改善に役立てる。

定期考査後の振り返りについて

学習計画及び取組についての振り返り

- ・学習計画は無理のないものであったか
- ・学習は計画通り進められたか
- ・予定通りにいかなかった場合に、修正ができたか
- ・学習時間や内容は適切であったか。
- ・全ての教科について学習をすることができたか。
- ・一通りの学習の後に、練習問題をしたり、分からなかったところをやり直したりすることができたか。

学習内容についての振り返り

- ・分からなかった問題は分かるようになったか。
- ・途中で解くのをやめてしまった問題は最後まで解けるようになったか。
- ・同じ問題が次に出されたときにできるようになったか。
- ・間違っていて覚えていたことはなかったか。
- ・似たような問題が出た場合に、解けるようになったか。
- ・同じ間違いをした友だちに、正しく説明ができるか。
- ・間違った問題はどのようにして間違えたか説明ができるか。

家庭学習の充実に関する取組（学習の手引き）

取組を理解してもらうために年度初めに「学習の手引き」を配布する。保護者にも通知し、内容を確認していただく。また、教科ごとの学習の取組（家庭学習も含む）については、授業内に資料を用いて指導を行う。

（1）【小笠原中学校の取組】

①GW学習記録プログラムの活用

- ・設定した期間中の家庭学習の内容や家庭学習を行った時刻（時間）を記録し、日常の中での学習習慣の見直しや改善に役立てる。
- ・期間終了後、反省を記入し、保護者の方からコメントを記入していただく。

②定期考査学習計画表の活用

- ・定期考査2週間前に、試験の範囲表を参考にしながら試験までの学習計画を立てる。
- ・①GW学習記録プログラムと同様に学習や時間の記録を行い、計画通りに進んでいるか確認し、計画の見直し等を随時行う。
- ・期間終了後、反省を記入し、保護者の方からコメントを記入していただく。
- ・次回の定期考査前の学習計画を立てる際に活用する

③家庭学習ノート【1ページノート】の活用

- ・毎日ノート1ページ分の学習を自主的に行い、学習習慣を身に付ける。
- ・内容は自分で決めて行う。苦手な部分や理解が不十分な部分を学習する。
- ・家庭学習の取組について、何をすればいいのかがわからない生徒には、漢字の練習や計算練習、英単語の練習を促す。

（2）【保護者の方をお願いすること】

家庭からも生徒に以下のことをお伝えください

- ・自ら学び、問題を解決する力が、これからの「生きる力」につながる。
- ・分からないものはそのままにせず、友だちや先生に聞くことが大事である。
- ・短時間の学習でも、積み重ねると長い時間になり、多くのことができるようになる。
- ・机に向かう習慣をつけておくと、将来必要なときに、長い時間の学習が無理なくできるようになる。
- ・小・中学校で学ぶことは、今後学ぶことの大切な土台となる部分で、しっかりと固めておかなければならないこと。

家庭で話題にしてください

- ・家庭学習の時間帯や、おおよその時間について。
- ・家庭学習を自主的に進めるために必要なものについて。

家庭にお願いしたいこと

- ・生徒の家庭学習への取組を見守り、励まし、褒めて意欲を向上させてください。
- ・生徒が学習する環境についての配慮をしてください。
- ・分からないことを気軽に家族に聞ける雰囲気作りをしてください。
- ・自分自身がどういう勉強をしてきたか、勉強が進まないときにはどんなことをしたのか等、経験に基づいてアドバイスをしてあげてください。